

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人旭川医科大学

1 全体評価

旭川医科大学は、地域医療を担う人材の育成を設置の原点とし、教育・研究・医療・社会貢献等の更なる発展を目指している。第3期中期目標期間においては、グローバルな視点を持ち国際社会でも活躍できる医療人の養成、基礎研究を臨床応用・実用化につなげイノベーション創出を果たすための研究環境整備と研究成果の社会還元、学長のリーダーシップの下での安定した財務基盤の構築を主な目標としているほか、他機関との産学官連携や医療機能連携の推進・強化、外国人の受入れや国外への情報発信の推進、高度急性期医療と先進医療の両立、多職種協働による質の高い医療提供体制の構築等を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、民間事業者と連携し病院施設や駐車場を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成29年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ 病院アメニティ施設整備運営事業**

大学所有の土地の一部を事業者へ貸し付け、事業者の負担により建物（鉄骨地上2階建て、約1,180㎡）を病院アメニティ施設として新設するとともに駐車場（200台分）を増設している。建物の1階は薬局、カフェの民間スペースからなり、2階は会議室、事務室等の大学スペースとなっている。この事業により、門前調剤薬局や病院駐車場の慢性的な混雑を解消するとともに、毎年、定期的な収入を得ることが可能となっている。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 大学入学者選抜の実施体制の強化に関する取組

入試ミスを防止する体制として、試験後に指摘等があった場合には、新たに外部有識者を加えた体制で対応することとしている。

### 附属病院関係

(教育・研究面)

### ○ 臨床研究支援体制の強化に向けた取組

臨床研究コーディネーター4名を平成30年4月から常勤雇用するとともに、学内の教員等へ個別に助言等を行えるよう手続や相談窓口を整備することなどを通じて、臨床研究支援体制を強化している。

(診療面)

### ○ 安全で高度な医療の提供

平成30年12月に、世界初となる高精細映像8K内視鏡を導入し、従来に比べ術野を細部まで高画質で映し出せるようになり、出血や術後の合併症のリスクを低減できることで、より確実で安全な手術の施行が可能となるなど、高度な医療提供体制を構築している。

(運営面)

### ○ 業務効率化に向けた医師用スマートフォンの導入

平成31年2月に、全ての医師にスマートフォンを配付し、通話のほか、コミュニケーションアプリによる患者情報の共有環境を整備している。それにより、必要な画像データを、クラウドを通じてやりとりすることで、従来の方法より早期に必要な情報を共有し、迅速な処置・手術等の実施が可能となるなど、業務効率化を推進している。